

- 問1 室町時代後期から戦国時代にかけて、幕府の権威が衰える中で、各地の戦国大名が自分の領国内を統治し、家臣団を統制するために独自に制定した法律の総称を何といいますか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 分国法

2. 公事方御定書

3. 御成敗式目

4. 武家諸法度
- 問2 会津地方を治めた蘆名氏が伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した

2. アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した

3. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した

4. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした
- 問3 戦国大名の一人である朝倉氏が定めた「朝倉敏景卿四十七ヶ条」という資料には、家臣が自らの居城以外に城を築くことを禁止する内容などが記されています。このような規定を設けることで、戦国大名が実現しようとしたこととして最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
1. キリスト教の布教を制限することで、領民の思想的な結束を図ること

2. 室町幕府の権威を背景に、近隣の守護大名との同盟を維持すること

3. 朝廷の許可を得ることで、他の大名に対して官位の優位性を示すこと

4. 家臣が独自の軍事力を持つことを抑え、大名による領国支配を強化すること
- 問4 日本の戦国時代にあたる16世紀、ドイツのマルティン・ルターが、当時のカトリック教会の腐敗を批判したことから始まったキリスト教の改革運動を何といいますか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
1. 十字軍

2. 産業革命

3. 宗教改革

4. ルネサンス
- 問5 日本の歴史における13世紀から16世紀にかけての外交や出来事について、年代の古い順（先に起きた順）に並べたものとして正しい組み合わせはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。

2. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。

3. 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。

4. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。
- 問6 室町時代後期から戦国時代にかけて、各地の実力者が幕府の法に頼らず、自らの領国内を統治するために独自に制定した法律を何といいますか。 (2024年 岡山県公立入試 類似)
1. 公事方御定書

2. 武家諸法度

3. 御成敗式目

4. 分国法
- 問7 1543年に九州南部の種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について、その後の歴史に与えた影響として正しいものはどれか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. この武器の輸入を目的として、室町幕府の足利義満によって明との間で勘合貿易が開始された。

2. 戦いが騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。

3. 鎌倉時代にモンゴル帝国が襲来した際、日本の武士が防衛のためにこの武器を組織的に使用して撃退した。

4. この武器の伝来をきっかけに、日本独自の武術である剣術や弓術が廃れ、すべての合戦がこの武器のみで行われるようになった。
- 問8 戦国大名による領国支配の実態について述べた文として、当時の法律の内容や背景から考えて正しいものはどれか。 (2024年 奈良県公立入試 類似)
1. 伊達氏の法典では、農民が年貢を納められない場合に備え、納税を免除する権利を認めた。

2. これらの法律は、全国の戦国大名が合議によって作成した全国共通のルールであった。

3. 分国法においては、武士同士の紛争はすべて室町幕府の裁判所に委ねるよう定めていた。

4. 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。
- 問9 室町時代の後半から戦国時代にかけて、各地で戦国大名が勢力を伸ばした背景として最も適切な説明はどれですか。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
1. 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため

2. 特定の家柄のみが政治を独占する「門閥政治」が行われ、それに反発した新興勢力が台頭したため

3. 朝廷の権威を重んじる「尊王攘夷」の考えが広まり、幕府を打倒する勢力が現れたため

4. 幕府が各地の有力な農民に領地を分け与え、新しい支配層として育成したため
- 問10 戦国時代、各地の戦国大名は自らの実力で領国を統治するために独自の法令を制定しました。これらの法令において、「家臣同士が勝手に婚姻を結ぶことを禁止する」や「領国内での勝手な築城を禁止する」といった項目が盛り込まれた主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため

2. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣接する他の領国へ拡大するため

3. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目の内容を、全国の農民に分かりやすく広めるため

4. 江戸幕府が定めた武家諸法度を遵守し、將軍への忠誠心を示すため
- 問11 戦国大名が領地の生産力を高め、軍事力を強化する（富国強兵）ために行った政策の説明として、正しいものはどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 農民に「五人組」を組織させて連帯責任を負わせることで、年貢の納入を確実なものにしようとした。

2. 領内の商人を城下町に集めるのではなく、各地の農村に分散させて住まわせることで、地方経済の安定を図った。

3. 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。

4. キリスト教の布教を全国的に推奨することで、ヨーロッパの先進的な武器や文化を組織的に取り入れようとした。
- 問12 越前国の戦国大名である朝倉氏が、拠点である一乗谷を中心とした領国支配を強めるために実施した政策の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 滋賀県公立入試 類似)
1. 家臣をそれぞれの所領に住まわせ、各地に防御のための城を自由に築かせた。

2. 家臣を一乗谷に集住させ、領内に勝手に城を築くことを禁止した。

3. 室町幕府の法令のみを遵守させ、独自の法による支配を一切行わなかった。

4. 一乗谷を商業専用の都市とし、家臣が居住することを厳しく制限した。
- 問13 15世紀後半から約11年間にわたって京都を中心に続き、その後の略年表において「下剋上」の風潮が全国に広まるきっかけとして記される戦乱はどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 応仁の乱

2. 壬申の乱

3. 承久の乱

4. 観応の擾乱